

## 「ピンチはチャンス」

先月に続き東日本大震災についての私見です。まずは、今もつらい生活の中にある被災者の皆様が一刻も早く安心した未来が開かれていきますこと、また亡くなった方々への心からの哀悼のお祈りを申し上げます。

まだ多くの課題が山積していますが、一面では大震災以来、ずいぶん日本人のよい面が出てきているように思います。皆で支えあい、助け合い、他の人を思いやる行動です。それは避難所での生活でも、義援金やボランティア活動にも強く表れています。



報道によれば、仮設住宅の土地がなく政府も自治体も悩んでいるところに、宮城県三陸町では高台に土地を持つ住民から無償提供の申し出が相次いでいるという。神奈川県からボランティアに1週間参加した63歳の壮年は「今何かやらなくては」と汚泥除去、畳や家財の運び出し、家屋の清掃など厳しい寒さの中で取り組んできた。終了後、その家のご家族からの「ありがとう」の一言で疲れも飛んでしまった。感謝の言葉に涙ぐむ仲間もいた。「また行くぞ」と決意を綴っている投稿もありました。

支えあう気持ちが国民を動かしています。終戦後、これほど日本人の心が一つになったのは初めてでしょう。世界史的には、国内政治がうまくいかなくなると、国民の不満を外に向けさせるために戦争に突入した事例もありました。敵国に侵入されるかどうかの状況下では、国民は一丸となって団結せざるを得ないのです。でも今回は自然災害（人災的な要素も多分にあります）の中での日本人の心の和合です。

一方、世界からいまだかつてないほどの支援や同情が日本に寄せられています。発展途上国からの支援にも胸打たれるものがあります。中国から派遣された研修生20人を高台に避難させた後に行方不明となった日本人の行動を、中国メディアが伝え感動が広がり、中国国内で関係者を支援する基金が開設されたともいいます。また、震災と原発で多くの外国人が離日するなか、知日家のドナルド・キーン氏は先日、アメリカの大学の最終講義で「愛する日本に移り、余生を過ごす」と述べ、さらに、復興の指標を経済中心主義から心の豊かさや人間社会のきずなに置き換える「軸ずらし」を提唱しています。



仏教では「人のために灯をともしれば、その灯で自分の前も明るくなる」という教えがあります。4月のこの欄でも「心の財こそ一番」と述べましたが、ぜひこの心を大切にす流れを恒久的につなげていきたいものです。

もう一つ。石原東京都知事の発言にはときどき受け入れがたいものもありますが、この震災に関して言った「我欲」「パチンコや自動販売機の夜の営業自粛」には私も共鳴しています。この20年くらいの中に、いつの間にか終夜営業のスーパーや娯楽施設があるのが当然のようになっていました。仕事が夜勤でそうした便利さが必要な人もいるかもしれません。でも、昔も夜勤があったけれどこんな深夜に煌々と電気がついていることは

なかったでしょう。夜は寝る（体を休める）ためのもの。暗い闇がそうした環境を作ってくれます。

近年の日本は関東大震災と第2次世界大戦を経験しましたが、その二つとも見事に乗り越え復興することができた。そこには日本人の持つ勤勉さと本来の良い特性がみなぎっていたのです。今こそ失い忘れかけていたその特性を最大限に発揮していくときです。

現在、国家レベルでの復興計画がさまざまに検討されていますが、私はモノや経済の面だけでなく、この機会に日本社会のあり方や日本人の生き方も根本的に見直し、質素で健康的な生き方に戻る方途を示していければ最高だと思っています。そうすれば、今回の大災害も「変毒為薬」（毒を変じて薬と為す）して日本の未来をより良くしていく大きな力になるでしょう。「ピンチはチャンス」ともなっていくのです。

被災された皆さんにとっては、現場に身を置かない第三者の勝手な発言と思われるかも知れませんが、私も義援金や語学ボランティアで精いっぱい支援をしている一人です。実は私は7年前にうつになり、死を身近に考えるような状態まで落ち込みました。でもありがたいことに約1年間で立ち直ることができた。それからは、病気になる前にも増して仕事や活動の舞台が広がっています。これも個人レベルでの「変毒為薬」の一例です。

現在、ベストセラーになっている「老いの才覚」（曾野綾子）にも同趣旨のことが書かれています。そこから3点ほど引用してみますと：



- 「日本は経済大国なのにどうして豊かさを感じられないのだろうか」とよく言われますが、答えは簡単です。貧しさを知らないから豊かさがわからないのです。今日も明日も食べるものがあって当然。水道の栓をひねれば水が飲める。飲める水を使って風呂に入ったり、トイレに流している。昔は日本人も水を汲みに行ったり、まきを取りに行ったりしましたが、今ではそういう生活が当たり前になった。もともと人間が生きるということはどういうことか知らない老人が増えたのです。
- 自分が受けさせていただけのサービスがあっても、自分は受けなくていい。代わりの方が使って下さったらうれしい、という気持ちが全く見受けられない。社会がしてくれるものならなんでももらっておこうというのは乞食根性になっている証拠です。
- 格差社会だと言われていますが、日本ほど格差のない国はない。誰でも救急車にただで乗れる国は非常に少ない。国民健康保険や国民年金、生活保護法などがある国など、めったにありません。



これらは日本人の全体にも当てはまっているような気がします。日本は今、歴史転換の大きな節目にあります。ぜひ国として、社会として、個人として、この危機（ピンチ）をチャンスに転換していきたいものと願っているところです。